目指せ！ネットエスパー

インターネット新検索術

インターネットの中に潜む膨大な情報たち。そこから欲しいものを見つけ出して活用するには、もはや１検索サイトだけでは役に立たない。ネットの海を自在に泳ぎ、必要な情報をすぐ取り出し活用する、そんな「ネットエスパー」に変身すればインターネットの利用価値は無限大になる。この連載で「ネットエスパー」に変身するスタートを切ろう！

二木麻里（ARIADNE運営）　NJump ariadne.ne.jp
Illust : Ebisu Yoshikazu

第３回　今こそ「eアジア」を知ろう

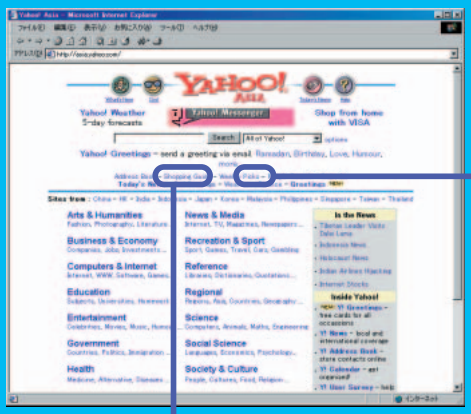
西暦2000年。マカオも返還されたし、香港は大にぎわい。ネットビジネスなら米国発信、なんて思っている人はまさかもういないだろう。経済危機を乗り越え、今やアジア各国が続々と電子商取引に乗り出している。ネット化が急速に進んでいるのは、日本や台湾、韓国だけではないのだ。ビジネス情報や地域文化がひしひしと伝わるアジアのインターネット。最大の特徴はなんといってもその元気のよさ。タイ、マレーシア、シンガポール……盛り上がる「eアジア」を縦横に歩くには、どこから探したらいい？

1　「アジア広域」の検索サイトで基本情報を押さえる

アジアのサイトやアジア株ってどんなものがある？　そもそも株式市場はどの国にある？　……というわけで、まずは幅広くベース情報をゲットしよう。大手検索サイトなら、各地域ごとに発信拠点を持っている。まったく見当がつかなければ、いつも使ってる検索サイトのトップページをスクロール。下のほうを覗けば、たいてい「世界の拠点」などの表示が出ているはず。

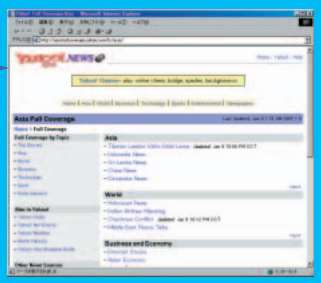
たとえば「Yahoo!」はアジア広域をカバーする「Yahoo! アジア」を発信している。経済、株式情報のベースサイト「Yahoo!ファイナンス」のアジア版まで作られている。インドネシア、マレーシア、シンガポール、台湾……なるほど範囲が広い。

こう見ていくと、いきなり国別の資料にダイブする前に、広域情報を見渡すベースが必要なことがあらためてわかる。ほかにも、たとえば「アジアコ」などはおすすめ。アジ



世界各国のYahoo!へのリンク中に、アジア向けサイトがある。サイトの分類方法は各国共通なのもYahoo!の売りの1つ。

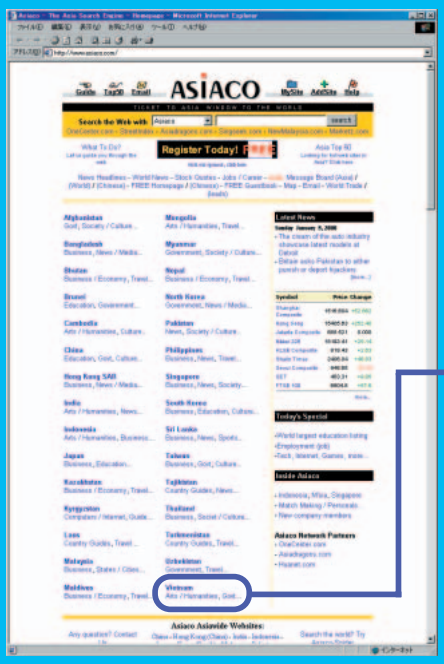
「Finance」で「Yahoo! Asia Finance 」へ。各国のリンクをクリックすると、経済ニュースが国別にまとまった形で表示される。ダウ、AFPなど配信元別のソートもできる。



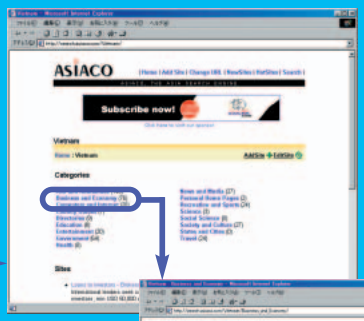
「Full Coverage」でアジアを中心とした世界のニュースやエンターテインメント情報にアクセスできる。

電子商取引：ネットワーク上で電子的に決済情報を交換して行う商業上の売買行為のこと。小売市場に限らず、企業対企業の取引や個人対個人の取引も含む。

©1994-2007 Impress R&D



国別に分類して、トップページにアジアの経済指標やニュースヘッドラインを表示している。

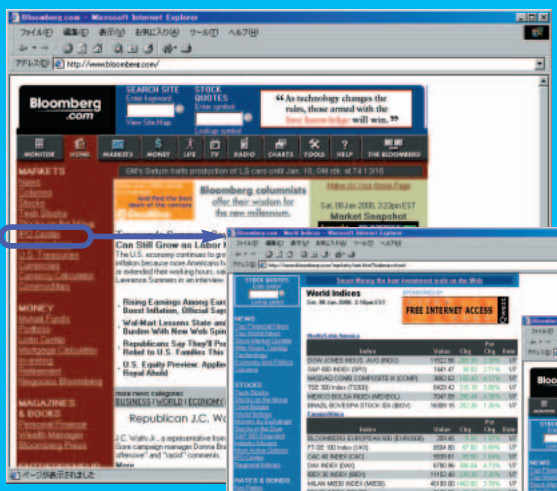


「Vietnam」→「Business and Economy」へ。サイト数と短い解説が手頃な量でまとまっている。

アの総合検索サイトとして全体を検索でき、国別にも探せる。ここで「ベトナム」→「ビジネスと経済」とたどってみると、結果は76本。現地の企業や関連リソースなどがすっと出てくるので助かる。アジア全域をカバーできる情報源では「スカリサーチ」もある。検索範囲を絞りやすく使いやすい構成だ。また地味だが「オリエンテーション・アジア」は、これだけの地域をまかなえる検索サイト自体少ないので貴重だ。

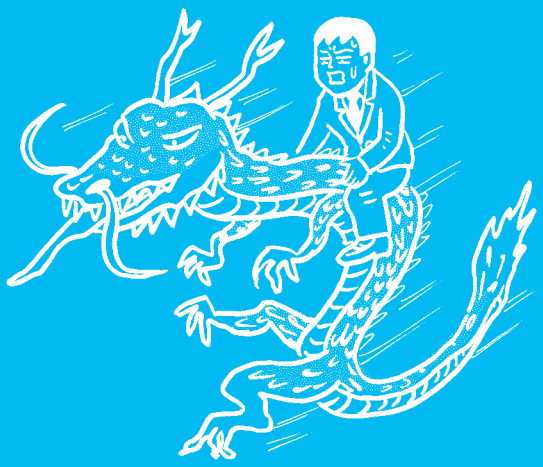
「Yahoo! アジア」Yahoo! Asia（シンガポール）
Jump asia.yahoo.com
「スカリサーチ・アルタビスタ」
Skali Search, AltaVista（マレーシア）
Jump altavista.skali.com.my
「オリエンテーション・アジア」
Orientation Asia（米国）
Jump as.orientation.com
「アジアコ」ASIACO（マレーシア）
Jump www.asiaco.com

2 専門サイトで「経済のアジア」の情報を確保



トップページから「Market」→「World Indices」→「Asia/Pacific」へ。香港のハンセン指数からニュージーランドの株式市場までが一目瞭然だ。

経済に特化している「ブーム」。「Company Profile」では7か国の企業データが検索可能。メンバー登録が必要なメニューも多い。



汎用検索サイトから「地域」でアジアを探したら、もう1つの道筋は「専門分野」からアジアを見つけ出すことにある。たとえばアジアの株情報を知りたいなら、株や経済分野のグローバルなオーソリティーサイトのアジアエリアをたどると効率がいい。

有名な「ブルームバーグ」には、太平洋地域のページもある。経済市場情報やニュース、為替もしっかり調べられる見事なポータルで、リソースの質が信頼できる。キーワードサーチだけが探し物じゃないのだ。

さらに同種の関連リソースを1、2本選んで比較しながら調べていけば、お目当ての経済情報と一緒に各リソースのクセも見えてくる。アジアの経済リソースとして「アジアンソーシズ」をあげておこう。インドのeコマースに関する集中連載もあって充実している。アジア株式市場情報では「ブーム」もいい。香港、中国、日本、台湾などアジア各地の動向を一覧でき、関連ニュースも読める。企業データもここから得られる。

「ブルームバーグ」Bloomberg.com（米国）
Jump www.bloomberg.com
「アジアンソーシズ」Asian Sources（香港）
Jump www.asiansources.com
「ブーム」Boom.com（香港）
Jump boom.com/en.html

ポータル（Vortal）："Vertical Portal"を表す造語で、分野別ポータルの意味。ある分野に関係する専門情報を提供したり、その分野の中心に位置して企業間の連携などを受け持ったりするサイトを指す。

インターネットマガジン/株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

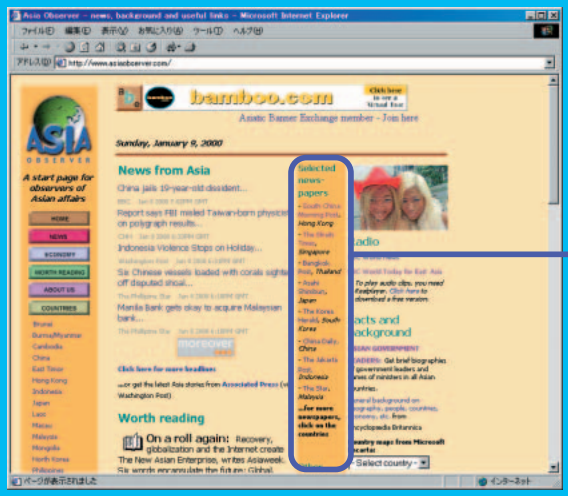
3 現地の新聞・雑誌で日々のアジアをウォッチ

「地域」のアジア、「分野」のアジアと基本を押さえたら、ぜひとも日々の情報にダイブ！　ダイナミックに動くアジアを見つめる体制を作ろう。新聞、雑誌はもちろん、政治経済のニュースは必須だ。これらも1つずつ自力で拾うより、前項で挙げたような総合リソースをベースにすればまとめて掘り出せる。たとえば「アジア・オブザーバー」などは、経済市場ニュースのゲートにいい。

これら専門系のゲートサイト、いわゆるポータルサイト数件をつき合わせると、どこもが共通して筆頭クラスに挙げるサイトが出てくるのに注目しよう。このサイトこそが、そのジャンルの代表的な情報源なのだ。これさえ見つかれば、あとは川を上流から下るようにするするとリソースをたどれる。ある分野の知識を体系的に捉える術は、このステップにあると覚えておこう。

この方法で見つかった有名なニュースサイトをいくつか挙げておこう。シンガポールの「ストレーツタイムズ」と香港の「サウスチャイナ・モーニングポスト」は日刊紙のサイト。週刊なら香港系の「ファーイースタン・エコノミック・レビュー」、CNNの「アジアナウ-アジアウィーク」もおすすめ。この4本があると、中国を含んだ東南アジアの経済情報はほとんど追える。それから「Howa-Howa NNA」も。アジア各地のニュース速報などを日本語で読める貴重なリソースだ。

「アジア・オブザーバー」Asia Observer（香港）
Jump www.asiaobserver.com
「ストレーツタイムズ」Straits Times（シンガポール）
Jump straitstimes.asia1.com.sg
「サウスチャイナ・モーニングポスト」South China Morning Post（香港）
Jump www.scmp.com
「ファーイースタン・エコノミックレビュー」Far Eastern Economic Review（香港）
Jump www.feer.com
「アジアナウ-アジアウィーク」Asia Now-Asiaweek（米国）
Jump cnn.com/ASIANOW/asiaweek/
「Howa-Howa NNA」NNANET Howa-Howa（日本）
Jump newsnet.asia.ne.jp



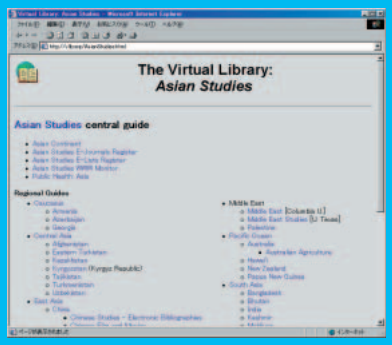
香港の有力新聞「サウスチャイナ～」（上）と、アジア全域をカバーする「アジアナウ～」（下）

アジアの有名メディアへ効率のよいアクセスができる「アジア・オブザーバー」。各メディアのおすすめ記事を取り上げているので、効率のよいチェックが可能だ。

4 アジア学術研究サイトで背景をキャッチ

アジアの一般情報と経済情報、ニュースについては基本ツールがほぼ見えた。このいわば「広いアジア」（全体）と「狭いアジア」（ジャンル別）の間をつなぐような、歴史や文化についてのバックボーンを探る資料はないだろうか？　もちろんある。学術的な地域研究情報 、いわば「深いアジア」だ。アカデミックリソースはまったくの別世界と敬遠しがちだが、人口統計や経済指標など、基礎資料を得るには必須だ。たとえば学術分野で知らない者はいない「WWWバーチャルライブラリー」。多くの専門サイトが連なるゆるやかで巨大な集合体だが、ここのアジア研究部門はネット上でも屈指の資料。また「クイーンズライブラリー」では、中国大陸、台湾、香港を中心に地域情報を得られる。オーソドックスな情報が精選され、クオリティーは高い。

「WWWバーチャルライブラリー　アジア研究」Asian Studies WWW Virtual Library（米国）
Jump vlib.org/AsianStudies.html
「クイーンズライブラリー」Queens Library WorldLinQ（中国）
Jump www.queenslibrary.org/wlinq/wlinq_en.html



構成はシンプルだが、ここからたどれるものは途方もなく広い。

ニュースサイト：新聞社やニュース専門のテレビ局などが母体となって、時事関連の速報を伝えるサイトのこと。日本では「アサヒコム」（Jump www.asahi.com）などが有名。

©1994-2007 Impress R&D

お助けツールここにあり!
各国発信! 検索サイト集

大変な勢いで増えつつあるアジアの情報発信サイト。だから、今回は現地情報をたっぷり揃えた国別検索サイト集をどうぞ。もう理屈は抜き、アジアのあの国をひたすら知りたい、旅行にいきたい、地図を見たい、現地のホテルは? レストランは? お望みの情報を検索できる各地の検索エンジンをどうぞ。インターネットエクスプローラ5.0では外国語表示の問題がほぼ解決されているが、うまく表示されないブラウザーもある。このため「Yahoo! ジャパン」などでは現地サイトの前に日本語でブリッジページを設けたり、解説や英語版選択のリンクを入れたりと便宜を図っているので参考にしよう。

「South Asian Milan」(南アジア-インド、パキスタン、スリランカ、バングラデシュ、ネパール)
Jump www.samilan.com

「123 INDIA」(インド)
Jump www.123india.com

「khoj India World」(インド)
Jump www.khoj.com

「Search.LK」(スリランカ)
Jump www.search.lk/links/

「Myanmar Information Gateway」(ミャンマー)
Jump www.infogate.com.mm

「East Timor World」(東ティモール)
Jump freedom.tp/etlinks.htm

「SANOOK!」(タイ)
Jump www.sanook.com

「Pakistan Web Directory」(パキスタン)
Jump webs.com.pk

「Cari-Malaysia Search」(マレーシア)
Jump www.cari.com.my

「NETNET Web Community Online」(シンガポール)
Jump www.netnet.com.sg

「Nepalsearch」(ネパール)
Jump www.nepalsearch.com

「LaoWorld」(ラオス)
Jump www.laoworld.com

「Yehey!」(フィリピン)
Jump www.yehey.com

「INDOSEEK」(インドネシア)
Jump www.indoseek.co.id

「Sina.com」(中国)
Jump home.sina.com.cn

「Timway Hong Kong Search Engine 添達香港搜索器」(香港)
Jump www.hksrch.com/welcome.html

「Yam.com 蕃薯藤」(台湾)
Jump search.yam.org.tw

「Simmani」(韓国)
Jump www.simmani.com

「AltaVista Korea」(韓国)
Jump altavista.co.kr

インターネットエクスプローラで中国簡体文字、ハングルなどが表示できるGlobal IMEはここから手に入れよう。

「マイクロソフト Global IME」
Jump www.microsoft.com/windows/ie_intl/ja/ime.htm

北京から発信している「Sina.com」(左)と、日本版より先にオープンした「AltaVista Korea」(右)。

5 今月のポータルキット

それではおさらい。スタートはアジアの総合検索サイトや株式・経済の専門サイト。そしてニュースサイトで多角的にeアジアを探した。また学術研究サイトは、地域資料として強力な武器だとあらためて強調したい。旅行者としてのアジア、ビジネスマンとしてのアジア、そして学究的なアジア。さまざまな角度からどこまでも「深いアジア」に踏み込もう。インターネットを通じて初めて見えるアジアの新鮮な表情が待っている。各国のサイトではタイ語やマレーシア語、韓国語などがそのまま出てくる「異国情緒」も味わえる。ネットは生のアジアを感じられる現地情報の宝庫なのだ。もちろん日本もアジアのメンバー。ぜひ一緒にeシーンで盛り上がっていきたい。

1	導入	アジアのサーチエンジンや総合情報リンク
2	専門	経済サイトでアジアの株式に精通
3	ニュース	現地の新聞・雑誌で日々のアジアをウォッチ
4	学術研究	アジア学術研究サイトで背景をキャッチ
※	お助けツール	アジア各国の検索サイト集

二木麻里(ふたき まり)
上智大学外国語学部卒。ライター・翻訳家。社会・人文科学系の国内外資料を案内した総合サイトARIADNEを運営。自著に『思考のためのインターネット』(筑摩書房ちくま新書)など。

Global IME(グローバルアイエムイー):インターネットエクスプローラ4.0以降で、多言語の表示と書き込みを可能にする追加コンポーネント。

インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

［インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ］ ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D（株式会社インプレスから分割）が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

http://i.impressRD.jp/bn

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D（当時は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先
株式会社インプレスR&D
All-in-One INTERNET magazine 編集部
im-info@impress.co.jp

Copyright © 1994-2007 Impress R&D, an Impress Group company. All rights reserved.